

## ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認  
HSK通巻番号628号  
発行 令和6年7月10日  
毎月10日発行 定価100円  
(維持会費を含む)  
編集 〒060-0006  
札幌市中央区北6条西12丁目8番3  
公益財団法人ふきのとう文庫  
電話(011)222-4839  
FAX(011)222-4800  
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会  
細川久美子

### 地域包括ケアシステムから地域共生社会への変遷と子ども第二の居場所作り

公益財団法人ふきのとう文庫 評議員 青山 誠

二〇二五年には団塊の世代が七十五歳以上となる超高齢社会を迎えることが現実視されている中、二〇〇五年に地域包括ケアシステムという概念が示され、以来、その実現に向けて様々な取り組みがなされています。地域包括ケアシステムの目的は「住まい」「医療」「介護」「介護予防」「生活支援」の五つのサービスが病院・施設・民間事業者・地域包括支援センター・社会福祉協議会など保健医療福祉のサービスマネージャー・地域の住民が連携することで、医療や介護そして認知症対策が必要な高齢者が住み慣れた場所を離れることなく、尊厳を保ちながら自立生活を続けられるようにすることです。

このような地域包括ケアシステムを推進していく中で、その推進の核となる地域包括支援センターの相談支援窓口には、高齢者の介護に留まらない老々介護・障がいを抱える子と要介護状態の親との同居・閉じこもりや虐待・ごみ屋敷などの相談が多く寄せられるようになり、市町村では、もはや高齢者に留まることがなく障がい者や子育ての分野に至るまで身近な地域での相談支援体制の構築が求められるようになってきました。

こうした状況を受け、高齢者を対象とした地域包括ケアシステムを深化させる必要が生じ二〇一六年に国は「我が事・丸ごと」地域共生社会本部を立ち上げました。国が示す地域共生社会とは、制度・分野ごとの「縦割り」や「支えて」「受けて」という関係を超越して、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながること、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を指しています。

この新たな地域共生社会という取り組みの中に地域包括ケアシステムは内包されていくことになり、市町村には、高齢者のみならず全ての人を対象とした支え合いの総合支援体制整備が求められてくることになりました。

このような取り組みが進む中、生活困窮者支援についてもクローズアップされるようになり、二〇一五年に生活困窮者自立支援法が施行され、その中に子供の学習・生活支援事業が組み込まれました。この事業は、生活保護世帯の

子どもを含む生活困窮世帯の子どもに対する学習支援・育成環境の改善や教育及び就労に関する支援等と規定されています。

更に二〇二三年四月に「子どもをまん中においた社会づくりへの大きな一歩として、一元的に子どもの行政を扱う行政組織の創設」として子ども家庭庁が発足し、「子どもまんなか社会」の実現に向けた政策のひとつとして「子どもの居場所づくり」が掲げられました。

このような社会情勢の中でふきのとう文庫が、日本財団の支援を受けて「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営を二〇二三年七月から始めたことは、とても先進的な取り組みであり、これまで子ども文庫で培ってきたノウハウを十分に生かせる活動でもあると思います。ふきのとう文庫の「子ども第三の居場所」は、家庭や学校に居場所がない子どもに対して、単に居場所を提供するだけでなく

(次ページに続く)



#### プロフィール

昭和四十年八月二十九日 五十八歳  
所属 医療法人 溪仁会 法人本部

#### 学歴

昭和六十三年三月 北海道大学医療技術短期大学部 理学療法学科卒業  
平成二十四年三月 北翔大学人間福祉学研究所人間福祉学専攻修士課程修了 修士

#### 職歴

昭和六十三年四月 医療法人聖愛会 発寒中央病院勤務  
平成三年四月 岩隈脳神経外科勤務  
平成八年四月 医療法人 溪仁会 手稲溪仁会病院リハビリテーション部副部長として勤務  
平成十二年四月 リハビリテーション部 部長  
令和五年一月 医療法人 溪仁会 法人本部 リハビリテーション担当部長

生活習慣の形成や学習のサポート、食事の提供を行うとともに、必要に応じて子ども一人一人に寄り添った支援をきめ細やかに提供する役割を十分に担えるものと思います。

二〇二四年度からは、日本財団からの開設補助資金五、〇〇〇万円を使って増床工事を始めることが定期評議員会で報告されました。増床工事により、利用する子ども達にとって更に良い居場所環境を提供することができるようになり、この札幌市内での活動がますます注目されることと思います。

子ども家庭庁の調査では、家や学校以外に安心できる第三の居場所が欲しいと考える若者や子どもが全国で七割に上ると公表されました。即ち、桑園地域に限っても第三の居場所を必要としている子ども達が数多く存在し、地域の至る所に様々な特徴を有する第三の居場所が必要であることがわかります。今後どのように第三の居場所を増やしていくかが子ども家庭庁の課題となっています。一日も早く、至る所に様々な特徴を有する第三の居場所ができて、多くの子ども達が、自身で第三の居場所を自由に選択できるようになることを願っています。

最後に、個人は、全国各地域リハビリテーション研究会の会員として、およそ二十年前に渡り地域包括ケアシステムの啓発活動や実践に携わってまいりました。この五年位は、地域共生社会の啓発活動を展開しています。が、高齢者対策と比較して子どもに対する施策は、まだまだ不足していると感じています。日本の未来を担う全ての子ども達が、心理的安全性が担保されている環境で、健やかに成長できる日が一日も早く到来することを願ってやまないのと同時に、その一助となる活動をふきのとう文庫が実践していることを大変誇りに思います。

## 令和5年度 事業・決算報告

### 事業報告

#### 1. 子ども図書館の運営

①開館日数		205日
②入館者数		6,791人（1日あたり33人）
③登録者数		5,198人（新規登録者数370名）
④貸出し件数	図書	24,765冊（紙芝居 419冊）
	拡大写本	139冊
⑤図書の拡充	新規購入	115冊
	紙芝居	3冊
	寄贈図書	220冊
	受贈図書	324冊（受贈益486,000円）

#### 2. 布の本の製作・貸出

①製作	材料セット	272冊分
	完成本	153冊
	販売品	773個
②ボランティア養成講座	講習会	4回コース：定員6名… 講習終了後ボランティア参加
	③木育ひろば	(社)北海道森と緑の会主催：さくらグループ参加

#### 3. 拡大写本の製作

①製本	児童図書、絵本	91冊
	合計	91冊
②拡大写本（寄贈）	配本先 中央小学校ひとみの教室	20冊
	札幌視覚支援校	14冊
	合計	34冊
③貸出し	札幌 大磯さん	27冊
	札幌 STVラジオチャリティーミュージックソン	10冊
	合計	37冊

#### 4. 機関誌の発行

7月、11月、3月に3回 各2500部ずつ発行

#### 5. 子ども催事

・おはなし会	12回開催	127人	・手づくり遊び	3回開催	27人
・うたう会	4回開催	78人	・札幌シンフォニエッタ	1回開催	24人
・人形劇団ひよっこ	1回開催	23人	・アンサンブル・フラテ	2回開催	74人
・南米楽器で楽しもう	1回開催	16人	・仁木彩子 演奏会	2回開催	65人
・腹話術	2回開催	36人			
・井上美豊子と楽しもう	3回開催	48人			
			合計	31回	518人

#### 6. ふきのとう文庫利用者数

今年度は7月に「第三の居場所」として、「ふきのとう・こどもクラブ」が新設され、子ども図書館の役割と同時に、子どもたちが気軽に立ち寄り、様々な経験が可能な場を提供することとなりました。それに伴い、親子での来館者も増加傾向にあり、今後も子どもたちの健全育成を軸として、周知広報に努めていきたいと考えます。

## 財産目録

令和6年3月期現在 (単位 円)

科目	当年金額	前年金額	前々年金額
I. 資産の部			
1) 流動資産			
現金	222,050	143,764	105,187
普通預金	6,548,996	4,956,795	3,175,722
振替預金	2,700,915	1,419,501	3,234,592
期末材料棚卸額	0	0	0
売掛金	105,200	235,090	139,260
流動資産合計	9,577,161	6,755,150	6,654,761
2) 固定資産			
①基本財産	122,205,005	127,834,867	133,464,729
②その他固定資産	13,933	367,245	937,860
固定資産合計	122,218,938	128,202,112	134,402,589
資産合計	131,796,099	134,957,262	141,057,349
II. 負債の部			
支払金	309,900	0	51,511
借入金	0	0	0
預かり金	74,119	48,856	24,728
負債合計	384,019	48,856	76,239
III. 正味財産の部			
正味財産	131,412,080	134,908,406	140,981,111
負債及び正味財産合計	131,796,099	134,957,262	141,057,350

## 収支実績表

令和5年4月期から令和6年3月期まで (単位 千円)

科目	金額			
	予算	決算	前期決算	前々期決算
I. 収入の部				
賛助会費	3,000	1,878	2,091	2,194
寄付金等	2,200	4,195	1,935	2,801
助成金	8,670	8,355	2,496	2,050
事業収入	1,600	1,835	2,030	1,819
雑収入	0	0	0	0
合計	15,470	16,274	8,553	8,864
II. 支出の部				
管理費	12,850	11,679	6,252	5,486
事業費	2,620	2,108	2,174	2,729
合計	15,470	13,787	8,425	8,215
当期収支差引額	0	2,487	128	649



## 収支報告

収入の部として、ふきのとう文庫活動の大きな支えとなる賛助会員数が、このところ減少にあることが懸念されることです。現在、251名の個人賛助会員さんと25法人賛助会員の広がる組織作りが課題になります。寄付金等では数件の高額な寄付が寄せられ、収入予算を確保することができました。

助成金では、今年から日本財団による「第三の居場所」事業が開始され、その運営助成金(627万円)が受領されました。新たな助成金団体として、こくみん共済、コープさっぽろ社会福祉基金からの助成を受けることができました。

支出の部としまして、コロナ禍の影響で活動範囲がやや減少している事で支出が抑えられ、第三の居場所事業でも事業コストを合理的に運用することができました。

収支結果としまして、収入増とコスト減が効果的に生じまして+248.7万の当期収支差益額となりました。

この収支差益額は、次期繰り越し資産額として留保し、以降の活動資金として運用していくことになります。財産目録では収支差益額が流動資産として増額となり、固定資産としては減価償却費減額分の減額となっております。

次年度へ向けましては、日本財団からの第三の居場所事業の運営費助成が令和7年度で終了することから、自力による資金調達が必要と求められており新たな財源対策が必要となります。

賛助費、寄附、寄贈ご芳名 にご支援ありがとうございました。

2024年3月以降賛助会費納入一覧

青木アサミ 青沼 静子 阿久津良二  
 安宅 仁志 安達 輝政 阿部 和男  
 阿部 登 飯田 孝雄 飯村 俊幸  
 五十嵐直子 砂金千佳子 石川 悦子  
 石川 一美 石川眞知子 石黒 英彦  
 市川 大祐 伊藤たてお 稲垣 智彦  
 井上せつ子 猪股久美子 井原恵美子  
 井村 裕夫 植竹 俊光 上村 由美  
 碓井トミ子 梅沢 愛美 運上 敏明  
 遠藤知恵子 大内 和子 大倉 聡子  
 大越 農子 大島千寿子 大塚 宏哉  
 大野 公子 大野 信道 大野 恵  
 岡田 智雄 岡田有利子 岡安 泉  
 岡安 美幸 小川 基弘 奥野 和弘  
 奥野 俊吉 小栗 法韶 押田 法明  
 小田嶋文彦 小田嶋雅子 小野寺信子  
 尾山 信行 恩村 裕之 攪上 久子  
 加森久美子 加藤 紀夫 加藤 博巳  
 角田 順子 金沢 幾子 金山 聖子  
 兜 賢一 鎌田 哲宏 鎌田 勇一  
 上條 尚子 亀井 伸照 川口谷 正  
 切金 浩幸 喜多 宏明 北川 恭三  
 君島 道明 木村 正彦 工藤 良行  
 熊谷 勝宏 熊野 清子 黒柳 俊雄  
 合田 一道 河野 智美 國岡 信子  
 國澤 敏子 小島美津子 小竹 勝  
 後藤 正憲 小林 敬彦 小林 孝三  
 小林美佐子 小柳田鶴子 小山 忠弘

近藤 龍夫 齊藤 洲男 齊藤 潤子  
 斎藤 仁史 齋藤 寛 堺 隆  
 堺 久子 櫻井 彩子 桜庭 英明  
 佐々木敦子 佐々木扶美子 佐々木雅夫  
 佐藤 香 佐藤真由美 佐藤美智子  
 佐藤 靖範 繁富よしえ 柴田喜代子  
 島 功二 島田 紘 島田小夜子  
 下村 愛 下村 笑子 東海林和代  
 神保 和子 末永 範子 頭川 恵子  
 菅原 眞 菅原三重子 菅原 睦子  
 杉崎 政明 杉下 清次 杉山 一夫  
 杉山 範子 鈴木 邦夫 鈴木 幹夫  
 鈴木美穂子 須藤 純子 諏訪部千秋  
 瀬川 淳子 関 寛 関口由紀子  
 瀬山 春彦 宗本 和博 高倉 聡子  
 高倉 新喜 高倉 聖哉 高下 圭一  
 高橋 光彦 高橋美枝子 高原とみ子  
 宝本 英明 宝本 博雄 宝本 昌紀  
 宝本 陽子 武田 育子 竹田久美子  
 竹野内ゆかり 竹村よし子 館田 勝久  
 谷川 松芳 田野中房枝 丹 暢夫  
 塚原 崇介 土屋 淑子 筒浦 直子  
 常本 幸枝 出村 良平 土居 安子  
 當瀬 規嗣 時任 顕正 栃内 香次  
 富永ナル子 友岡 和彦 中垣美知子  
 中川 富子 中北もと子 中里 祐子  
 長沢 洋子 中田 和代 中村 美絵  
 西村 敦子 西村 公男 西村 宏子  
 沼本 厚子 根子 香代 野崎 美江

野島 聡 野田 龍一 野村 邦重  
 橋場ゆきえ 橋本真知子 長谷川 衛  
 花岡 麻子 羽磨 尚實 羽磨 洋平  
 林 孝子 檜垣 正志 檜山かおる  
 平川 千宏 平野 和男 平山 貴雄  
 廣澤 洋子 広田まゆみ 福井 爽人  
 福井 睦子 福田 都代 藤井 雅裕  
 藤沢 薫 藤島 亮一 藤田 宮子  
 藤森 武夫 藤森 美紀 古谷 次郎  
 方川 正弘 望月扶美子 星野 フサ  
 星野 康 細山 公子 本多 慶子  
 前田貴美恵 前田 妙子 昌川 吉子  
 増田 正 松尾 絵美 松本 範男  
 三浦 育子 水口 忠 三ツ井 稔  
 南向 円乗 宮崎 むつ 向井 亮  
 村岡 樹 村上さおり 村雲佳代子  
 村田 照 村松 晶子 名和ワキエ  
 森 祥子 森 美智子 森下 宏美  
 森永美恵子 門馬 公生 安井真知子  
 柳瀬 幸弘 山内 薫 山岸 健  
 山口 良子 山下 修 山中 三知  
 山根しのぶ 山本 安雄 横澤 秀明  
 横山 洋子 吉川 秀樹 吉田 育子  
 米口 葵 米口 亜紀 米口 敦士  
 米口 穂花 米澤 智子 渡辺 英子  
 渡邊 一弘 渡辺 功一 渡部 英昭  
 和野 徳子

法人賛助会費納入一覧

- (株) 安藤敏郎建築設計事務所
- (株) エス・アイザックス商会
- (株) 小川ホームズ
- (株) 札幌管材公社・代表取締役社長 中村 弘
- (株) スドウ建設・代表取締役 須藤時夫
- (株) 童心社
- (株) 図書館ネットワークサービス
- (株) 六花亭
- (有) 雷屋・代表取締役 川合宗次
- アークスグループ労働組合連合  
あつぷる
- 越前谷脳神経クリニック
- おのだ眼科・院長 小野田周平
- 近藤工業(株)
- 紺屋真知子様方「わらべ」
- 生活協同組合コープさっぽろ
- 桑園第10町内会
- ダスキンSサーヴ・小林 寛
- 図書館問題研究会
- 東札幌眼科・合田千穂
- 北海学園大学同窓会
- 北海道労働者福祉協議会
- リコージャパン(株)
- 青木 遥香 青沼 静子 飯村 俊幸
- 大内 和子 大島千寿子 木村 正彦
- 黒柳 俊雄 小島美津子 小西 博光
- 斎藤 聖子 斎藤 勝二 松本 宏司

2024年3月以降寄附金納入一覧

(個人)

- 青木 遥香 青沼 静子 飯村 俊幸
- 大内 和子 大島千寿子 木村 正彦
- 黒柳 俊雄 小島美津子 小西 博光
- 斎藤 聖子 斎藤 勝二 松本 宏司

港 ひろみ 南 昌義

(団体)

- UAゼンセイ
- 伊藤忠記念財団
- スナック・ミッチー 山下道子
- 生活クラブ生活協同組合
- 図書ボランティア(日曜係) 6名
- 布の絵本「ゆめの会」佐藤美代子

2024年3月以降寄贈一覧

3月3日	松田佐江子	児童書	1冊
3月5日	福田 都代	絵本	5冊
3月11日	童心社	絵本	1冊
4月2日	福田 都代	絵本	9冊
4月4日	林 孝子	手作り品	多数
4月5日	偕成社	児童書	3冊
4月7日	童心社	絵本	1冊
4月12日	童心社	図鑑 2セット	
4月15日	青木 遥香	絵本	2冊
4月21日	杉下 清次	お菓子詰め合わせ	多数
4月30日	伊皆 春美	書籍	1冊
5月12日	松浦りつ子	絵本	15冊
5月17日	日本即席食品工業協会	ぬいぐるみ	
5月19日	童心社	書籍	1冊
5月26日	米口 亜紀	絵本	1冊
5月31日	ちゅうでん教育振興財団	絵本	6冊
	学研	児童書	1冊

行事一覧

6月4日	和野 徳子	絵本	3冊
6月5日	学研	児童書	1冊
6月16日	米口 亜紀	絵本	3冊
6月19日	童心社	児童書	1冊
3月19日	運営会議		
3月24日	手作り遊び		
3月31日	和太鼓演奏会		
4月7日	ギターと歌おう		
4月14日	仁木彩子ピアノ演奏会		
4月16日	運営会議		
5月1日	会計監査		
5月7日	理事会・運営会議		
5月12日	うたう会		
5月19日	おはなし会		
5月26日	評議員会		
6月2日	南米楽器で楽しもう		
6月9日	井上美豊子と楽しもう		
6月12日	札幌市立桑園小学校2年生 施設見学		
6月16日	おはなし会		
6月18日	運営会議		
6月19日	岩内町 ボランティアグループ11名 見学		
6月30日	子育てのわらべ歌		



# ふきのふのふ・ふきのふのふの一年

運営リーダー 星野 康

昨年七月、ふきのとう・こどもクラブが開所しました。そこは「家庭でもない学校でもない第三の居場所」です。しかし、いったいどんな活動をしていけばよいのか、みんなの手さぐりの中でスタートしました。

こどもクラブは「保育ではなく見守り」「ほっと一息つける居心地のよい場所、学びあい楽しめる空間」「空地向きたいときに来て、帰りたいときに帰っていい」「空地みたいなところ？」といわれます。それでもイメージはなかなかわきません。

活動の場であるふきのとう文庫自体が「居場所」でもあります。そこで活動を始めたふきのとう・こどもクラブの一年を振り返ってみましょう。

## 一年間の歩み

### 〈七月〉

七月二十三日より「こどもクラブ日誌」の記入。活動の記録が始まりました。スタッフは「こどもクラブはどこなところなのか」を話し合い、その中でここに来たら①何をするか？本を読む？②自分勉強する？それとも遊ぶ？③お話しする？のんびり遊ぶ？④困ったことわからないことがあったらスタッフに声をかけてくださいますの掲示物をつくり、それを活動の基本と考えました。それは子どもたちとも共有したことです。

### 〈八月〉

今でも課題ですが「活動のスタイルを決める」(四時前は学習・本を読むなど落ち着いた活動、以降ゲームをしたり体を動かしたりできるという)が話題になりました。夏休みのこの時期、来る子の人数は安定し



7月2日開所式

ません。「誰が来るか予想できない」のがこどもクラブというのを再認識しました。こどもクラブとしてF B、インスタ、Xへの投稿、新ホームページの更新を始めました。この頃から英語活動も始まりました。英語かるた、英語の絵本読み聞かせ、英語クイズなどレパートリーも豊富になりました。

### 〈九月〉

スタッフの体制が変わり、「こどもクラブニュース」の発行が始まりました。懸案だった軽食・おやつ提供は九月二十日ブレ、そして九月二十七日から「もぐっこタイム・定員十五名」として週一回を目標にして始まりました。

### 〈十月〉

「月に一度は子どもたちが楽しめるイベントをやりたい」とスタッフの話し合いで考えた一回目のイベントは「ハロウィンパーティー」でした。月初めから準備を始め、ピニャータというお菓子入りのくす玉をクラブの子たちとつくり十月三十一日を迎えました。ピニャータを割り、たくさんのお菓子が落ちてくると子どもたちは大喜び。一日としては最大の十九人が参加しました。

### 〈十一月〉

十一月からは毎週一回のもぐっこタイムがはじまりました。軽食やおやつ提供はこどもクラブ活動の柱の一つになっていきました。また十一月は、日本財団から提供されたiPadを使い十一月六日に「マインクラフトワークショップ」を開催しました。東京から来た講師の方の指導を受け、ゲーム感覚でタブレットに向かいました。

### 〈十二月〉

毎日だれが何人来るのかわからないものの、こどもクラブに来る子どもも徐々に増え、ボランティアスタッフ、サポートスタッフとスタッフが二名増えました。十二月の大きなイベントはクリスマス会。ゲスト



太鼓実演

による「十二月の月の贈り物」の読み聞かせを聞きみんなが楽しめました。十八人が参加し、クリスマスケーキに舌鼓を打ちました。

### 〈一月〉

年が明け一月七日から始まったこどもクラブは書初めから活動スタート。学校とは違った楽しい作品が出来上がりました。異文化コミュニケーションの一環として第一期の、「ハンゲルで遊ぼう・韓国語講座」(定員制、全五回)始まりました。講師はボランティアスタッフの金仁子先生です。この講座は二期へと続きます。

### 〈二月〉

二月六日に「節分」イベント。大きな鬼のお面をつくりました。その口めがけてみんなが「鬼は外、福は内」と豆まきしました。二月十四日には「パレンタインデー」のイベントも行いました。

### 〈三月〉

三月のイベントは「ひな祭り」。三月五日に行いました。この日に向けてクラブの子たちは折り紙でお雛様をつくりました。また、ふきのとう文庫の日曜催事にクラブの子の参加が増えるようにと、こどもクラブ企画の日曜催事を行うことになりました。その一回目「太鼓の響きを楽しもう」は図書館にまで響く音にみんなびっくりしていました。

### 〈四月〉

第二期「ハンゲルで遊ぼう・韓国語講座」(定員制、全六回)を始めました。また、新学期からは毎日のおやつ提供の場、「カフェタイム」を始めました。おやつを食べながら交流する時間です。学校や学年が違う子どもたちが交流することで相互理解も進んでいくと考えています。入学式からは時間が経ちましたが四月十六日に「ようこそ！こどもクラブへ」イベント。十六人が参加。新学期に向けての目標を出し合いました。

### 〈五月〉

五月は日曜催事のこどもクラブ企画が二つ。「ギターと歌



NHK実況で紹介

おう」そして「アイヌ文様切り絵ワークショップ」でした。こどもクラブの参加もむらはあるものの少し増えてきました。五月のイベントは五月二十日「こどもの日」です。ゲストの方が「チポリーノの冒険」大型紙芝居をやってくれました。

### 〈六月〉

登録者は順調に増え、六十名を超えるまでになりました。また、開所時に作成したふきのとう・こどもクラブのパンフレットを改訂し、こどもクラブのことがよりわかるものにしました。平日のイベントとして「読み聞かせ」「スクラッチアート」とゲストを招いての取り組みを行いました。こどもクラブ企画の日曜催事は「子育てのわらべ歌」を六月三十日に行いました。

### 〈七月〉

七月十日「ふきのとう七夕の集い」を行います。クラブに来る子それぞれが短冊に願い事を書いて飾ります。そして七月二十三日「誕生会」を行います。ふきのとう・こどもクラブの一年目の誕生祝いでもあり、七月生まれの子たちのお祝いでもあります。八月、九月と続けていく計画です。

七月二十八日には、初めての野外活動「ブルーベリー狩りに行こう」を行います。バスに乗って余市教育福祉村・ふれあい農場へ行く計画です。ふきのとう・こどもクラブ二年目の新たな歩みが始まります。

開所から一年が過ぎました。「第三の居場所」としてのふきのとう・こどもクラブが「とびきり居心地のよい居場所」になっているのか、また、ふきのとう文庫・子ども図書館の機能を生かして活動できているのかなど、今までの活動を振り返ると課題は山ほどあります。スタッフはもろもろのこと関係者のみなさんの知恵を寄せ集め、子どもたちの「見守り」を基本にしながら、こどもクラブのよりよい在り方を考えていきたいものです。



もぐっこタイム

## スタッフ紹介



ふきのとう文庫

星野 康

クラブスタッフを引き受けた理由は二つ。その一つがふきのとう文庫での活動ということでした。今では六十名を超える登録者のこどもクラブ。多くの子はふきのとう文庫との関係が深いようです。「小さいときから通っていたよ。時には事務室に入れてくれおやつも」と話してくれた子は今、中二。文庫が閉館した四時過ぎ、図書館に移動し一人読書を始めました。「おばあちゃんにクッキーを焼いてあげたい」と料理の本を借りるために、はじめて貸し出し券をつくった子もいます。「家庭や学校と違う第三の居場所」が図書館と共にある、このことがふきのとう・こどもクラブの特徴でもあり存在意義なのかもしれません。「図書館で育ち、クラブで育つ」そんな思いを大事に育てていきたいと思っています。



韓国語を教える

金 仁子

一月三十日から一週間おきで行われている韓国語講座「ハンゲルで遊ぼう」が、四月二十二日から第二期に入りました。韓国語をあらわす文字を「ハンゲル」と呼びますが、四角や丸が入り混じり、こどもたちの目には記号のように見えるかもしれません。はじめてハンゲルと接したこどもたちの口からは、「パズルみたい！」という声が上がりました。まるで遊びのように、韓国の文字や言葉、文化を楽しみながら学んでいます。この小さな学びの経験が、グローバル時代、こどもたちがいる異なる文化に興味と感心をもつことにつながると思います。



クラブの半年間

鏡 千草

ふきのとうこどもクラブに入ってから半年ほどを、子ども達と一緒に過ごしてきました。学校や学童クラブと違い、来たい時に来て、何をしても良い。という、子どもたちの自主性を尊重するあり方が、まだまだ珍しいクラブのあり方であり、新しい取り組みです。試行錯誤の繰り返しですが、来てくれる子どもたちに、楽しい時間、まったりとお話できる時間、皆で集団遊びの時間、一人で静かに過ごす時間。それぞれ思いのまま過ごしてもらいたいな、と思っております。日曜から水曜までの週四日の開所ですが、その中で遊びやおやつの日をメンバーで、会話をしつつ交流がこれからも深まっていくことを楽しみにしています。コマやけん玉、リコーダー、英語、ハンゲル語に興味を持ったことを真剣に、または楽しく取り組めるよう、我々スタッフも努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



元気に遊ぼう

前谷 福美

ふきのとう・こどもクラブ初日、ドキドキしながら子どもを待っていた一年前。今は放課後の生活に慣れ、自由来館でその日に集まった友達と遊びを通して喜怒哀楽を出し、折り合いをつけながら、その人を知り仲間づくりをみながら探り、好きな遊びを選んで遊んでいます。また、私達大人も子ども達のために何が出来るのか、何をすると楽しんでもらえるのか試行錯誤の日々を過ごしています。これからも子ども同士を「くっつける糊」になって援助ができれば幸いです。最後に、私は遊びが大好きです。「一緒にやらないかい」私も入れて

とおじやま虫になって、遊びきって元気になりたいです。



一年を振り返って

大友 かな

もともと文庫の事務補佐をしていましたが、昨年の七月からは新たにふきのとう・こどもクラブのスタッフとして関わることになりました。初めは「子どもの第三の居場所って何だろう？」というところから始まり、わからないことだらけで緊張していましたが、心強いスタッフの方々に助けられ、少しずつ勝手がわかるようになりました。普段は接することのない子どもたちと接することで、自分が小学生だった頃を思い出したり、ギャップに驚いたり、新しい気づきを得られる日々を送っています。



英語との再出発

栃木 莉子

「子供たちに英語と触れ合う機会を。」このお話から私のクラブでの仕事が始まりました。過去に英語を教えた経験はあったものの、勉強とは異なるふれあいとは何だろうとはじめは頭を悩ませました。ところが、そんな心配を飛ばすように、試しに本の読み聞かせをするのと楽しそうに聞いてくれたり、日本と他国の文化の違いについてクイズを出すのと大盛り上がり。中でも、十二月にクリスマスに関連する言葉のパズルを出した時、聞き覚えのある単語を発音する子供たちの姿が強く印象に残りました。

英語との付き合い方は座学だけではない。思えば、自分も歌や遊びの中で英語を知るようになっていったな、とふと思いつきました。まだまだ試行錯誤の連続ですが、私自身も英語と改めて向き合いながら、遊びを通して英語とふれあうためのアイデアを練る日々です。

# 子ども第三の居場所事業の経過報告と増床計画について

担当理事 大友 健 太

子ども第三の居場所拠点（ふきのとう・こどもクラブ）の活動が、ふきのとう文庫と札幌市（公財）日本財団との三者協定に基づき、二〇二三年七月二日よりスタートしてから早いもので一年が経ちました。

ふきのとう・こどもクラブは、「この拠点をハブとして、誰一人取り残さない地域子育てコミュニティをつくる」ことを第三の居場所拠点のビジョンとして掲げ、「すべての子どもたちが将来の自立に向けて生き抜く力を育む」ことを目的として開設されたものです。

そして、この拠点の特色として、図書館機能を活かした読書と、異文化交流による多様な価値観に触れる機会を提供することを打ち出し、そのほか、生活・学習支援、食事の提供、多世代間の交流を行うものとなりましたが、図書館で静かに本を読んだり、一人で勉強したり、みんなの輪に入っ

て遊んだり、子どもたちが自由に過ごしている様子を伺い知り、子どもたちにとって安心できる居場所づくりが一年を通して作られてきていることを実感しております。特に、図書館の空間を有効に活用することができているほか、こども会話（韓国語・英語）や昔遊びも好評で、この場所ならではの独自のカラーになっているのではないかと感じます。

増えてくることは間違いないものと思います。

こどもクラブのスタッフは、若い二十代（学生）から経験豊かな六十代（元教員など）まで幅広い世代で構成されています。木造の図書館の空間や手作りの布の絵本、関係するスタッフの面々によって、こどもクラブに温かな雰囲気と落ち着きをもたらし、子どもたちにとってたいへん居心地の良い空間が提供されているものと思います。また、平日ではこどもクラブのスタッフを三名以上配置することができおり、最大十五人程度の小学生と一緒に活動することで、ふきのとう文庫全体にも活気をもたらしています。

開設してからの活動ですが、スタッフの発案により、もぐっこタイムやカフェタイムのほか、クリスマスやハロウィンなど季節のイベント等を開催して、子どもたちのおなかと心を満たす活動を実施しています。さらに、今年度は拠点から外出して活動の場を広げる計画を立てており、親子で参加するブルーベリー狩り（七月）やさつまいも掘り（十月）、電車で行くノーモア・ヒバクシャ会館などを企画するほか、近隣の公園等を利用した活動も行う予定ですので、追って活動状況等についてご報告して参ります。

さて、今年度は新たに日本財団の支援を受け、ふきのとう・こどもクラブ専用の活動拠点を敷地内に増築することとなりました。現在は、図書館とガラス戸を隔てた多目的室を利用しておりますので図書館利用者や運営者へ少々遠慮しながらの活動となっておりますが、専用の第三の居場所（こどもクラブ）棟ができますと、からだを動か



左側・新築増床の第三の居場所棟

したり、大きな声を出したり、これまでよりアクティブかつ自由度の高い活動を実施していけるのではないかと思います。

新しく建てられる建物は、木造平屋建てで、延床面積が約八十七㎡（うち、活動室約四十八㎡、多目的室約十四㎡）で、専用玄関、トイレ、キッチンを設置して独立した施設としても機能しますが、図書館テラスを渡り廊下として図書館と繋ぐ設計としており、これまでどおり、図書館利用を自由に行えるものとしています。

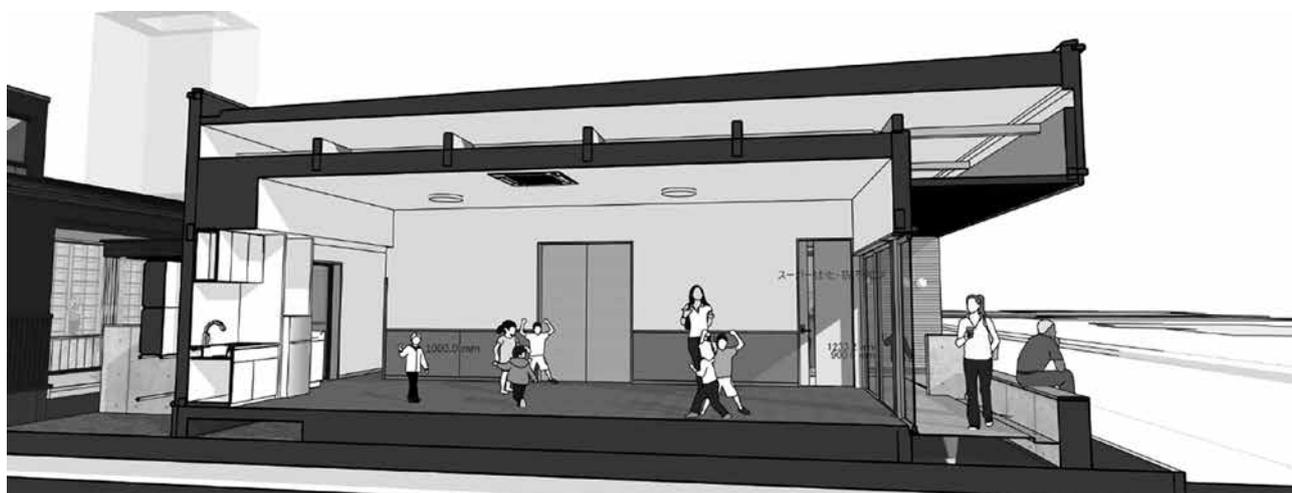
九月から着工し、三月末までに完成する計画ですので、こどもクラブは、今年度はこれまで同様の場所で開催していくこととなります。

折からの物価高、資材費・人件費の高騰により、建築工事価格が数年前と比べて一・二〜一・五倍に跳ね上がってしまったこともあり、途中設計変更を余儀なくされるなど、紆余曲折しましたが、既存施設と調和した温かな雰囲気の木造の建屋で、必要な機能を充足する設計になっていますので、子どもたちが安心して過ごせる居場所空間になるものと確信しております。

最後に、二〇二四版の世界幸福度報告が、国連持続可能な開発ソリューションネットワーク（SDSN）から発表されています（三月二十日）。一四三か国中、日本は幸福度が五十一位とG7の中で最も順位が低く、三十歳未満では七十三位という低位であることが報告され、若年層がより満たされていないという悲しい現実を突きつけられています。ふきのとう・こどもクラブは、この拠点に通う子どもたちの非認知能力・自己肯定感を高め、「生き抜く力を育む」ことに寄与する存在になりたいと考えております。今後ともご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



上空から見たイメージ



西側から見たイメージ

## ◆おばけの文庫の最新ニュース

### ビオラ演奏会

二〇二四年四月十四日

今年も仁木彩子さんがやってきました。四月十四日お天気も良く大人十七人・子ども十一人もの方々が来て「ビオラ演奏会」に参加しました。ビオラはバイオリンよりも大きな弦楽器です。ビオラの弾き方を教えてくれました。ビブラートをきかせながら引くと音に深みがあります。最初に♪愛の挨拶・ピツイカート・トロイメライ♪です。心地よい音が響き渡ります。次に春の演奏で♪春の聲・四季より春の三曲でした。音をパネルシアターに合わせて表現します。子ども達の大好きなデイズニーから♪ビディバイデブー・パルトオブユアハート・ひとりぼっちの晩餐会♪親子で体を動かしながら聞き入っていました。最後に



はみんなで楽しめる曲の演奏です。♪幸せなら手をたたこう・東京ブギウギ♪とても幸せな気持ちになる二曲でした。

### ヤチシンコス演奏会・南米アンデス音楽で楽しもう!

二〇二四年六月二日

毎年恒例の南米楽器演奏「ヤチシンコス」の皆さんがやってきました。十六組の親子が南米音楽にノリノリでした。「ケーナ」は南米アンデスで先住民に受け継がれてきた縦笛です。その他の民族楽器は筒状の竹を並べて音階になるようにしてつくった「サンポーニャ」、大きな太鼓「ボンボ」、マンドリン



絵本「おばけのマールとたのしいオーケストラ」に、仁木彩子さんと所属している札幌交響楽団が載っています。

に似た「チャランゴ」が軽快な音楽を奏めました。演奏曲は幼子がママに花束を持っていく♪母に捧げる花束♪、アンデスの大地の神様をたたえる歌♪カント アラ パチャマ♪子ども達は踊りながら聞き入っています。エクアドルのリズム♪セレスト♪マリポーサ♪、一九六〇年代にサイモンとガーファンクルが歌詞をつけてアレンジしたお馴染みの♪エル コンドル バサ♪この時に初めてケーナが世界に紹介されました。他二曲もとても楽しい演奏で体を使い、走り回りながら聞いている子もいました。普段聞くことのできない音楽に触れながら親子で楽しい時間を過ごしました。



ヤチシンコスの皆さん。左からボンボ高橋さん、ケーナ鴨沢さん、チャランゴ森末さん、歌・ギター北浦さん

### 井上美豊子と音楽を楽しもう!

二〇二四年六月九日

六月九日今年度初めての井上美穂子さんのイベントが行われました。大人十三人・子ども十一人



の皆さんが参加しました。今日のテーマは「どうぶつ」です。色々な動物が登場する曲です。最初は「アイアイ・こたりのうた」お馴染みの曲です。子ども達は体を使って歌っています。♪ねこふんじゃった♪で

は絵本にあわせてピアノと一緒に歌います。次に♪かたつむり・かえるの合唱♪です。かえるの合唱では二つのグループに分かれて輪唱をしてみました。手遊び歌では♪おはなしゆびさん♪頑張っ指を使って歌いました。♪げんこつやまのためきさん♪だんだんスピードが上がっていきます。もう少しで父の日なので、参加してくれたお父さんに絵本の読み聞かせがプレゼントされました。年四回行われる井上美豊子さんのイベントです。次回は九月を予定していますのでおたのしみに！

岡田 記



### 台湾の研究グループが研修に訪れました

去る六月二十六日、昨年に引き続き、北海道大学公共政策大学院の池畑周直美教授(比較政治学)がアレンジされている日台エグゼクティブプログラムにて、台湾のみなさまがふきのとう文庫を視察訪問されました。

今回のプログラムのテーマは、「ポストコロナ時代における『ウェルビーイング』の再定義・持続可能で、包摂的、かつレジリエントな社会づくり」。

特に『ふきのとう・こどもクラブ(子どもの第三の居場所)』に関心を持たれ、「台湾から寄付することは可能か。」などと積極的に質問されるなど、興味深く施設内を見学されました。

みなさまからは、「大変有意義な時間であり、非常に勉強になった。」との声が寄せられておりました。ふきのとう文庫として、今後も北海道大学における台湾との学術交流への協力を続けてまいる所存です。

宝本 記



### —— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキスト No	布の本	テキスト	材料セット	テキスト No	布の本	テキスト	材料セット	テキスト No	布の本	テキスト	材料セット
11	かくれんぼだあれ	200円	販売終了	15	おかあさん	200円	3030円	15	どんぐりころころ	なし	4360円
12	MY BOOK	200円	3320円		どうぶつ	1820円	おむすびころりん		なし	5560円	
	このいろなあに		3850円	16	まる	200円	3320円	遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円
13	のりもの	200円	1620円		むし	2230円	遊具	やさいセット(8種)	なし	600円	
	だれのうち		3320円	17	ちいさいおおきい	200円	3030円	遊具	くだものセット(7種)	なし	500円
14	Greeting	200円	3030円		さかな	1720円					
	おやつ		1720円	わっ!	なし	1720円					

## ふきのとうガーデンの賑わい

図書ボランティア 鈴木美津子

図書係の私が多忙な元理事の出村さんから庭係をバトンタッチされたのは二〇一八年秋頃だったと記憶しています。

ガーデニングを趣味にしているので、広いお庭での庭造りは新たなチャレンジが出来る良い機会だと思えました。

ふきのとう文庫に植えてある花木や宿根草は全てが寄付や持ち寄りの植物で、一年草は種から育てるローコストガーデンをコンセプトにしています。

酸性土壌が好きなの、アルカリ性土壌が好きなの、乾燥に強い弱い等々植物の性質を大切に植えて替えをし、新しい仲間が入るときは土作りをからの植栽を心がけました。

成長した姿を想像しながらの作業は時を忘れてしまい「もうすぐ四時ですよ」と声をかけられる事がしばしばでした。庭の中央にあるライラックは元理事の久保田さんがライラック祭り中、列に並んで持ち帰って下さった



たのですが根着きが心配になる程の幼木でした。又館内の窓から庭を眺めた時にひととき目をひく巨大な白い原種系バラも高倉理事長先生のお庭から株分けされた時は僅か十センチ程であったと覚えています。もの凄い生命力の花達から日々パワーを貰っています。雑草も負けていません。雑草取りのお手伝いをして下さった方々にはどれほど助けられたことでしょうか。前庭の作業が疎かになって困っていたところ、図書係の岡元さんが素敵なグラスガーデンに変身させて下さり一気に！解決です。先日、庭作業中に後ろから「ア！チューリップのおばちゃんだ」と声が。去年の春にチューリップをあげた女の子でした。一年前の事を覚えていてくれたなんて！感激です。

庭作業を通じて色んな方々との交流がありました。この度の庭改造で面積は狭くなってしまうますが、頭の体操に植栽を考え直し今後も皆様に楽しんで頂ける庭造りを目指していきたいと思っております。

## おとがき

文庫だより一三三号では、昨年七月二日に開所した「ふきのとう・こどもクラブ」の一周年を特集として紹介させていただきました。

新たな事業として、地域の子どもの楽しい居場所として、誰でも来られて誰一人取り残されない地域の子どものクラブとしてスタートしました。

現在、五十六名の利用登録と六名のスタッフで運営しています。

七月末には余市へ「ブルーベリー狩り」バスツアーを計画しております。外へも飛び出すプログラムも進めていきます。

増床計画も紹介させていただきました。が、他方、四季折々楽しませていただいた中庭が増床場所になることになり、汗してお庭造りに励んでいただいた図書ボランティア鈴木美津子さんには改めて感謝申し上げます。

横澤 記

編集 公益財団法人ふきのとう文庫  
代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北6条西12丁目8番3

☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800

http://www.fukinotou.org

E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp

令和6年7月10日 発行

毎月10日発行 定価100円（維持会費を含む）

昭和48年1月13日 第三種郵便物承認

HSK通巻628号

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細川 久美子

郵便振替 = 02720-3-2300 銀行口座 = 北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、「北海道共同募金会の配分」により刊行しています。  
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。